

あの
美食家

北大路魯山人も認めた 京都丹波の「あゆ」



京都丹波の「あゆ」はここがスゴイ

平安時代には

京都御所まで運ばれて、朝廷に生まれたあゆを献上していました。



明治末期から

南丹市日吉町から京都の嵯峨まで生きたあゆが運ばれ、京都で人気。



昭和末期においては

南丹市八木町や京丹波町和知では、料亭に來られたお客さんを川に浮かべた舟に乗せ、網で漁をしながら、その場で獲れたあゆを調理し食べてもらう「鮎狩り」が行われていました。



現在においても

南丹市の美山川で獲れるあゆは、全国のあゆの味を競う「清流めぐり利き鮎会」において、準グランプリを連続受賞する実績あり！



京都丹波のあゆを体験してみよう！

《道の駅「和(なごみ)」》

「食の京都TABLE」

・あゆを自分で掴んで、その場で焼いて食べることができる、「鮎ガーデン」を開催。夏季の大人気イベントとなっており、毎年多くの方が来場されます。

《京都丹波管内の漁業協同組合(大堰川、保津川、美山、和知川、東別院)》

・四季折々の大自然の中で、本格的な「友釣り」*を体験することができます。府内でも屈指のあゆ釣り人気スポットです。

※「友釣り」はあゆの縄張り行動を利用し、オトリあゆを攻撃させ、釣り針に掛ける日本独特の釣り方です。



道の駅和



大堰川漁協



保津川漁協

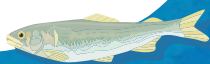


美山漁協



「京都・丹波あゆ街道」の取組

～京都の「あゆ」の食文化を支えた地を巡る～



「あゆ」を地域の魅力ある観光コンテンツとして戦略的に発信し、夏から秋にかけての京都丹波地域への「食」を目的とした観光誘客を促進するため、5つのコンセプトを設定しました。



① 買う

あゆの認知度を高めるために、暮らしの中であゆをイメージしてもらうことが大切です。そのために、身近で使えるあゆをデザインした商品づくりなど「買える」機会を増やしていきます。

【府の取組】

- ・鈴木ゼミ生作成デザインの使用許可
- ・あゆ PRグッズ(クリアファイル、キーホルダー等)の配布



② 食べる

観光誘客を進めるために、「あゆ」を食べられる場所のとりまとめや、「あゆ」を食べることができる機会を増やしていきます。

【府の取組】

- ・あゆが食べられる店舗マップの作成・配布
- ・あゆを活用した加工品開発支援



③ 支える

「あゆ」を知ってもらい、体験してもらうための場と仕掛けづくりを行うとともに、あゆを育てる環境づくりなど「支える」取組を進めていきます。

【府の取組】

- ・あゆつかみ取り体験等のイベント後援
- ・あゆ 資源確保に向けた種苗放流、カワウ対策支援

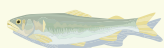


④ 発信する

紙媒体、SNS、メディアを活用し、次世代(子供、若者)にもあゆに興味をもってもらえる情報発信など「発信する」機会を増やしていきます。

【府の取組】

- ・若者目線のストーリー性のある広報誌の作成
- ・「川の京都」との連携による情報発信
(大阪・関西万博関連イベント等への出展)



⑤ 開発する

「買う、食べる、支える、発信する」を総合的に推進するための仕組みを開発していきます。

【府の取組】

- ・「京都丹波あゆの魅力発信フェア(スタンプラリー)」の開催

